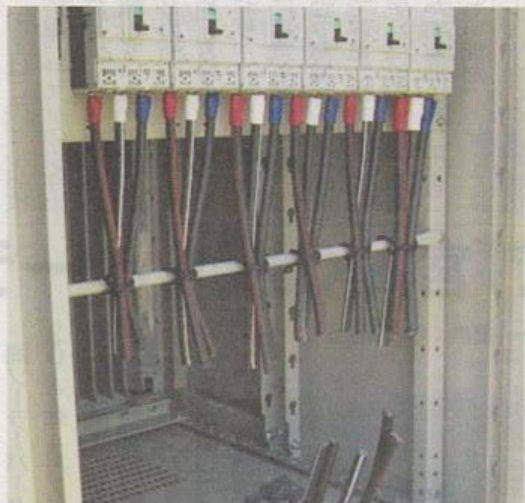


エナジービジョン

代表取締役
奥山 恭之

頻発するケーブル盗難の対策

集電箱内のケーブルが切断された例
(写真提供：有限会社アミカプルサービス)



●100割の盗難防止はない
保険内容の確認も重要

太陽光発電所のケーブル盗難が頻発している。

茨城県、千葉県での被害が多いようで、中には同じ発電所で2回、3回と盗まれたケースもある。

集電箱を開けて中のケーブルを切断し、反対側の端も切って引き抜いていく、というのが典型的な手口だ。

「プロの窃盗団がいる

のだろう。盗みやすい発電所を常に物色しているようだ」と被害にあった施工店は話している。工

事中に盗難に遭った発電所もあれば、引き渡し後に被害にあった発電所もある。大変な損害を被るが、実は対策はなかなか簡単ではない。

対策できることとして

①盗みにくい、と窃盗団に思わせること

②万一、盗まれた時の対策として保険を掛けること

くらいしかないのではないだろうか。

①については、

◆発電所の作り方で盗みにくくする

◆防犯カメラやセンサーライトを設置する

◆見回りするなど、人の気配を感じさせる

などがポイントとなる。

盗盗団は効率良く盗むために発電所を遠別しているようで、太く長いケーブルを一気に持っていきやすい作りの発電所が狙われている。同じような立地の発電所でも盗難被害に合わないところもあり、その傾向を考えると、ケーブルが切断しにくく、一本ずつのケーブルが短めで一気に引き抜くにくい構造が敬遠されるようだ。

また、防犯カメラやセンサーライトは、発電所全域をカバーするのはコスト的に厳しいので、集電箱やパワコン付近など、ケーブル切断時にアクセスしなければならぬエリアを集中的にカバーするのも良いだろう。人手を掛けて見回す

るのは頻繁にはできないだろうが、いつも見回りしていることをアピールするような看板を設置しておくのも一つの方法だ。ただし、盗難を100%予防することはできない。万一のことを考えて盗難保険には必ず入っておきたい。通常、自然災害保険に入っていれば盗難もカバーされることが多いが、中には盗難被害を対象から外すことで保険料を安くする契約もある。契約の中身を把握せず

第42回 「太く長いケーブル」には特に注意を

確認しておいた方が良いでしょう。